

令和3年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	3	事業区分： 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
		助成対象団体名： 公益財団法人神奈川芸術文化財団 施設名： 神奈川県立県民ホール（本館／KAAT 神奈川芸術劇場）
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>神奈川県立県民ホール（本館・KAAT 神奈川芸術劇場）（以下、県民ホール）は、音楽では一柳慧芸術総監督のプロデュースにより独自性を発揮し、音楽家に秘められた芸術表現の可能性を追求した。また、演劇・舞踊を担当する令和3年に着任した長塚圭史芸術監督は、「劇場は古き良き思考と、新たな視界の宝庫でありたい」という自身の芸術方針の基、想像力に溢れた劇場創りを行うため、人的ネットワークの構築を図り、県内各地を奔走した。</p> <p>県民ホールは、行政との一体的な運営を目指し、4つのミッション「創造に挑む」「感動を分かち合う」「常に考える」「未来につなぐ」を掲げた。本ミッションは、ヒアリング調査時に、令和元年6月に策定した「財団ビジョン2025」に基づいていることが判明した。財団ミッションが県民ホールのミッションとして活用されているため、神奈川県立県民ホール本館（以下、本館）とKAAT 神奈川芸術劇場（以下、KAAT）が担う各ミッションを明確にすることが望まれる。</p> <p>したがって、ミッション、ビジョン、地域のニーズ、アウトカム、目標、指標、事業の連関は不明確であり、ミッションの達成に向けて事業が適切に進められていると判断できない。</p> <p>（有効性）</p> <p>令和3年度要望時、4つのアウトカムについて掲げられた目標と指標が同じであったことから、内定後に修正を行った。特に指標については、事業が複雑に絡み合っていることから、定量的・定性的な指標を新たに設定した。</p> <p>県民ホールでは、4つの目標が掲げられ、そのうち3つの目標【1】～【3】についてはすべての指標において達成していた。しかし、目標【4】「将来の劇場・音楽堂に必要な、多様で専門性を持った人材を養成する」では、3つの指標のうち、指標12「人材養成事業への参加者数」が、目標値280人に対して実績値212人と下回った。</p> <p>令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、4つの目標に対し、指標12以外の実績値は満たしており、各目標はおおむね達成していたと認められる。しかしながら、妥当性で記したとおりミッションが不明確であるため、アウトカムの発現が期待できるか判断できない。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画どおり実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>また、事業費については、要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費目に増減があったものの、ほぼ計画どおり執行されており、おおむね適切であったと認められる。ただし、一部事業において広告宣伝費等に過度の予算増が見受けられるため、よ</p>		

り適切な予算積算と執行を求めたい。

（創造性）

本館では、一柳慧芸術総監督が事業全体の方向性を示し、音楽芸術監督参与が総監督の意を受け自主事業全体の指針を定めている。「一柳慧プロデュース G×G Composer's Journey（作曲家が作曲を訪ねる旅）」では、没後年にちなむ作曲家と、現在を生きる作曲家が出会う場として企画され、新しい室内楽シリーズが始動した。第一回目は山本裕之×武満徹、続く第二回は川上統×サン＝サーンスとし、作曲家サン＝サーンスの組曲『動物の謝肉祭』を軸として、創作に挑んだ。組曲『ビオタの箱庭』は、生き物の擬態を音で緻密に表現し初演の責任を十分に果たした。プログラムの監修を作曲家にゆだねることで、作曲家自身が改めて自己の探求を行った。また、それぞれの作曲家の新たな魅力を紹介するプログラムとなった。

KAATでは、芸術監督長塚圭史が、劇場の目指すべき姿と自主事業計画について、芸術方針を明確に示した。『近松心中物語』では、戦後日本を代表する神奈川県出身の劇作家秋元松代を取上げ、戯曲を再評価した。新芸術監督の日本近代戯曲の再発見への熱い思いが伝わる初演出作品となった。演出の派手さや様式美よりも普遍的なテーマに絞り、市井の人々の生態を浮き彫りにするという演出は、戯曲の本質を貫くものであった。KAATでは、シーズン制を導入し、年間を通じて、芸術監督の発するメッセージを県内外に発信することにより、劇場の目指す芸術方針や計画をわかりやすく伝え、演劇界の話題を沸騰させる優れた仕掛けが各事業に組込まれていた。

以上のことから、事業内容が、独創性、新規性、先導性等に優れており、事業の実施によって、当該劇場の国内での評価の向上につながっていると認められる。

（持続性）

財政面では、支援者の安定的な確保のため、県内企業及び個人を中心に賛助会員組織を運営しているほか、インターネットを通じた小口寄付の仕組みを整備し、寄付者の拡大を図っている。従来の賛助会員や協賛金など、年々減少傾向にある一方で、小口寄付は順調に上昇傾向にある。

事業評価については、専門家による外部評価のほか、有識者による視察と事業評価を行い、理事会へ報告する義務付けもあり、トップマネジメントによる継続的な業務改善に取り組んでいる。

人事面では、「働き方改革」に向けた取組を開始し、ワークライフバランスの取れた労働環境の創出に努めている。施設あるいは業務（施設管理・事業制作）に固定しがちだった職員を、戦略的な人事異動を行うことで、劇場全体の業務の平準化とノウハウの共有に取り組んでいる。また、上述の課題に対応するため、各部門が独立して取り組んできた機能を集約し新設された「社会連携ポータル課」により、外部資金の調達も含め検討することで、劇場の経営基盤の強化に努めることが期待できる。

しかしながら、妥当性で記したとおりミッションが不明確であるため、持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか判断できない。

（総 評）

首都圏に位置し、広域性と専門性を有する県立劇場として、県下政令指定都市以外の基

別紙（中間評価書）

礎自治体との連携や人脈ネットワークを促進し、地域に目配りの効いた効果的な事業展開を推進することに期待したい。

県民ホールが目指す「あらゆる人々が集う場・神奈川県立県民ホール」を実現するため、「本館」及び「KAAT」の社会的役割を明確化し、それぞれの強みを生かした独自の劇場経営を目指し、県民に愛され続ける劇場のブランド化が図られることが望まれる。

中間評価結果

（可否のいずれかに○を附す）

継続

可

否